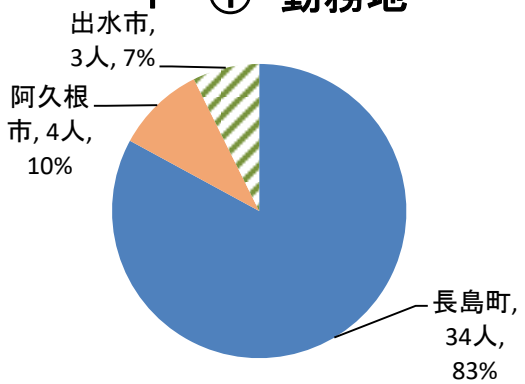
平成30年度　出水地区在宅医療・介護連携推進に係る多職種交流研修会

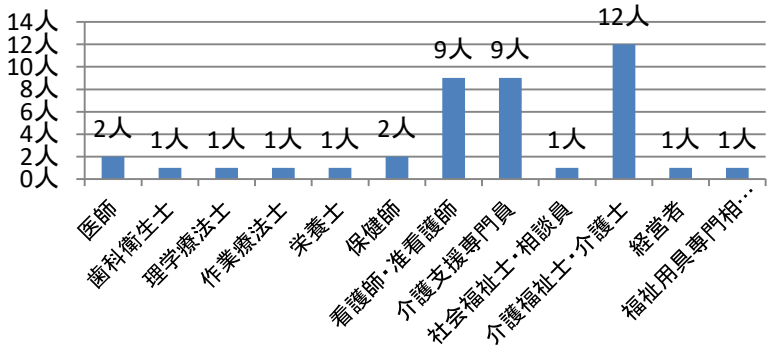
7月24日（火）　長島町開発総合センター

参加人数58名（研修広報班16名含む）　アンケート回答41名　回答率97.6%

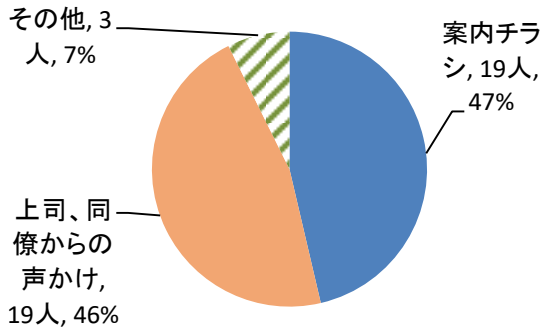
1－①　勤務地



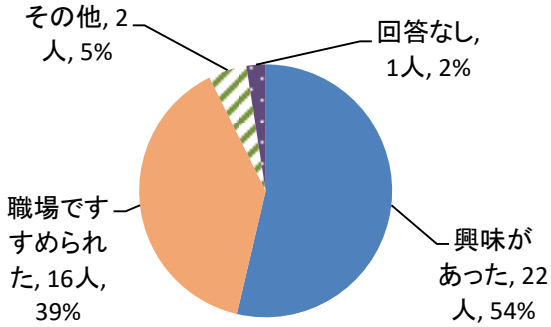
1－②　職種



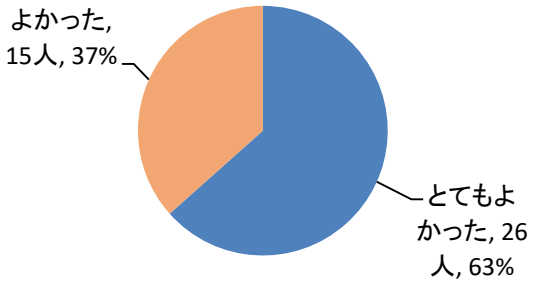
2－①　知ったきっかけ



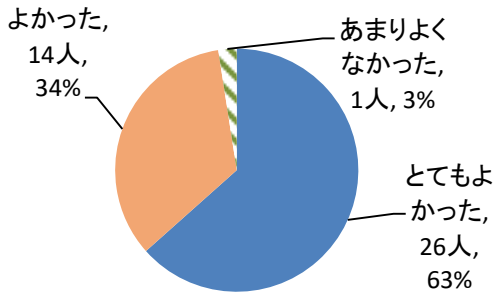
2－②　参加動機



3－①　グループワーク



3－②　ワールドカフェ



3－③　研修会についての意見や次回への改善点など

- **職種が違うと視点も違い、それぞれの意見が聞けてよかった。**（他5件）
- みんなで話し合い、色々な意見を言えてよかった。（他2件）
- 初めての参加で緊張したが他の職種の方と交流し色々な意見が聞けてよかった。（他1件）
- **離島における在宅医療、限られた中での資源の活用、活動内容等離島ならではの事例で非常に勉強になった。**（他3件）
- **地域性、それに伴う家族の思いをどのように引き出し関わっていくかを学ぶことができた。**
- **タイムスケジュールが完璧**でした。
- ワールドカフェのシステムが分かりづらかったです。
  移動するグループ分けがしてあるとスムーズにできるのではと思った。
- 次回は**ワールドカフェ以外の形式で**の研修をしてほしい。

4．在宅医療・介護連携推進のために取り組んでいることや日頃感じている課題等

【取り組んでいること】

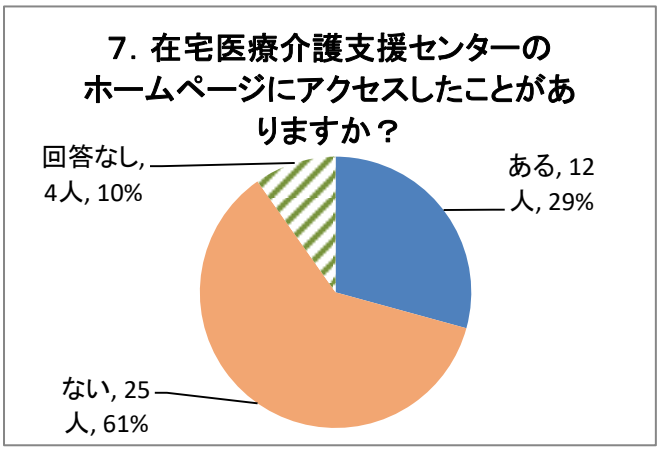
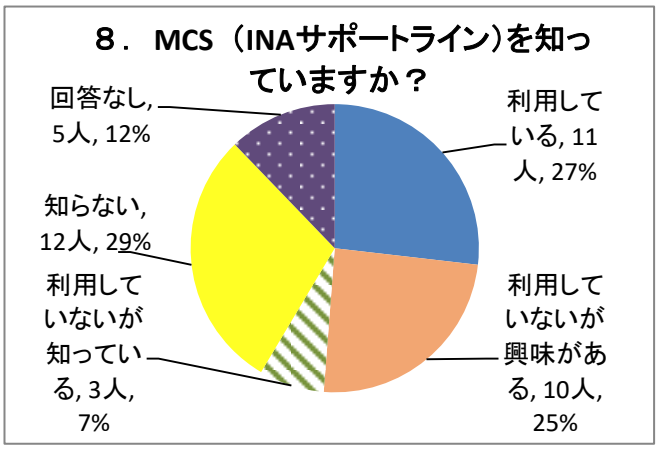
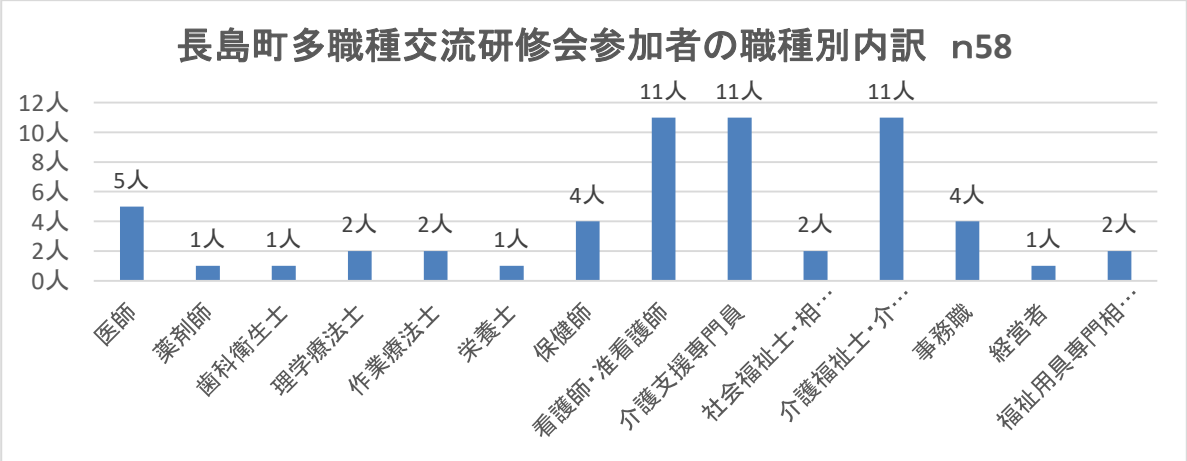
- 報告、相談を丁寧にしている
- 何でも話し合う事
- かかりつけ医との情報交換。受け取るだけでなく、介護の情報提供に心がける
- 本人の立場になって考え、偏りがないようにしている
- 地域内外、医療、介護関係者のネットワークづくりに取り組んでいる
- 本人や家族のニーズを把握し、少しでも希望に近い生活環境を整えていくようにしている（他1件）
- 終末期に歯科衛生士が関わる関わり方として、痛みや口腔乾燥の軽減が少しでもできたらという思いで取り組んでいる

【日頃感じている課題】
・利用者の**最期の選択**（自宅・それ以外）看取りの事等をどのタイミングで話したら良いか
・医師との連携、自己の成長
・**介護サービスの利用の方法**を知らない方がいる
・**法制度上、希望に添えないこともある為、それをどのようにして説明、理解してもらえるか**
・職場において、地域への理解をどのようにしたらよいか課題
・**公的な支援**（インフォーマルなもの）どのようなものがあるか**知る機会**を増やしたい
・他職種のスタッフと連携を図り、1人1人の利用者へより良い医療介護が提供できるようにしたい
・**他職種と連携しやすい体制**ができればよい
・認知症という病気を**他者に知られたくないという風習**

５．長島地区で、一人暮らしや高齢者夫婦世帯でも、希望の方が最期まで自宅で過ごすためには何が不足していると思いますか？

・最期の過ごし方の家族への情報が不足している
・具体的な方法についての情報
・家で看れないと決めてしまう事、不安を取り除くための情報
・**死生観教育**　・**本人たちの知識**　・**自分がどうありたいか決めること**
・**介護教室、認知症の理解**　・**地域や社会の理解**
・家族支援のあり方　・親子愛　・介護者
・本当に皆が自宅で過ごしたいのか不明だと思う。それぞれの思いを聞き出すワーカーが必要
・医師の声掛け　・主治医との連携に悩む
・マンパワー、事業所　・ヘルパー
・医療、介護、CMの連携
・不便な地域ではあるが“住み慣れた自分の場所を大切にする気持ち”を大切に受け取りたい
　訪問入浴が再開する事を楽しみにしている方々がいるので続けてほしい
・**お金がからむ人間関係のみならず、地域や近所の方が気軽に接することができる町づくりが必要**
・獅子島の方の医療連携
・在宅でできる事（限界）を説明して理解を得て、本人らしく希望通り在宅で過ごしていただく
・地域資源、サービス事業所、従事者不足
・知識技術的な質とサービス資源

６．在宅医療・介護連携推進のための具体的な要望

【住民向け講演会】
・認知症について（2件）

【医療・介護職への研修会】
・なし